



インターンシップ生が インタビュー

広島経済レポートでは今夏、インターンシップ生1人を広島大学から受け入れました。就業体験の一環として、大学の先輩に当たる(株)河野の河野幹章社長にインタビュー。物流業の取り組みや、経営者としての考えを聞きました。



KONO 株式会社 河野

1962年創業。食品専門の物流企業として兵庫～山口県に7営業所を展開する。トラック保有台数221台。2026年3月期売上高は57億5000万円。

河野 幹章 社長

1977年生まれ、広島市出身。広島大学卒業後は住友海上火災保険で営業職を経験。2005年に家業の河野へ入社。父の急逝を受け14年、3代目社長に就いた。

— 広大の法学部出身と伺っています。どうして法学部を選んだのでしょうか。

「なんだかかっこいいな」という感じで、あまり深く考えていなかった、というのが正直なところかもしれません(笑)。ただ、幼い頃から会社を継ぐつもりはあったので、法律関係の知識があれば役に立つという理由もなくはなかったです。

— 勉強以外で熱中したことは。

馬術部の活動に時間を費やしました。中学・高校はテニス部だったのですが、太田川の河川敷にあった馬場での練習を見て憧れを抱き、入部を決めました。でも乗るのはそこまで上手ではなかったですね。

— 座右の銘はありますか。

簡単な方では「迅速・丁寧・継続・忍耐」という言葉があります。当社のような物流業は、まず迅速かつ丁寧な仕事が求められます。そして、それを継続していかなければならぬ。継続するためには、忍耐力がないといけませんよね。これは大切な考え方として、社内研修で繰り返し伝えている内容でもあります。

もう一つは少し難しいですが「禍福はあざなえる縄のごとし」。良いことと悪いことは、より合わせた縄のように交互にやってくる、という意味です。私なりの解釈だと、待っているだけで福は来ない。課題に直面しても、努力し続けないと福はやってこない、という教えたと思います。

— 貴社にとつての課題は、やはり人手不足ですか。

そうですね。トラックドライバーの時間外労働に上限が適用された「2024年問題」はご存じかもしれませんが、これは当社に限らず、業界全体の課題といえます。そこで近年力を入れているのが外国人材の受け入れです。

以前はハローワークや社員からの紹介といった形で中途人材を確保することがほとんどでした。しかし一般に知られていないBtoBの業態ですから、このままでは人材を確保できなくなるのは明らかでした。例えばですが、東京など都市部のコンビニでは店員のほとんどが外国人。そういった社会の変化にわれわれも適応しなければという思いもありました。

— どのように受け入れているか教えてください。

まず提携している管理団体の下で日本語教育を受けてもらいます。その後は当社で十分なドライバー教育を行って、2〜3カ月程度で実務に入る流れです。受け入れの前後には双方でコミュニケーションをとりながら、一人一人の特性など互いに理





—ホームページでは「地域課題の解決」も目指すとありました。

地域に貢献する方法の一つは、雇用だと捉えています。外国人とは別に、女性やシニア世代、高校生の採用にも取り組んでいる最中です。物流業で働く人は「中年男性」といったイメージがありますが、なので多様性のある職場づくりは大きなテーマです。

特に高校生に向けては職場体験会

解しきれていない部分を確認していきます。

受け入れを進めていて印象的なのは、本人がしっかりと勉強をしてきている点。おかげで順調に進んでいると思います。ちょうど4月に兵庫県の尼崎営業所で、初の特定技能1号人材（中国籍）がドライバーとして単独乗務を始めたところです。来年にはもう1人、中国人の受け入れが決まっており、さらに数を増やしていきたいですね。

今後はインドネシアやネパールといった国からもドライバーの受け入れを進めていこうと思っています。またドライバー以外では現在17人のラオス人が倉庫管理などで働いてくれています。来年5月には26人まで増える予定です。



を開き、会社のことを知ってもらう活動を行っています。足を運んでくださった高校の担当者との関係性で入社につながった例もあり、大切に育てていかないとけない、という思いでいます。

—健康経営など「人」を大切にされています。

運送業は人がいないと成り立たないので、人こそ経営の源泉だという考えです。この夏はウオーターサーバーの設置や麦茶の配布など暑さ対策を十分にを行い、社員が健康で長く働ける環境づくりを進めています。

交流を深めるため、8月には釣りなど社内同好会の活動費を補助する制度がスタートしました。他にはゴルフコンペなども開いています。

最近では会社の価値観や将来像を外に向けて分かりやすく伝える目的で、MVV（Mission、Vision、Value）というものを作成しました。既存の経営理念・行動指針は過去から現在の軸で構成していましたが、MVVでは現在から未来の道筋を示しています。

当社は今年で創業64年。100年企業になることが目標です。外国人

の受け入れをはじめとした多様性や、健康経営といった取り組みにはこのMVVの考えが根底にあります。

—最後に、学生へメッセージをお願いします。

早寝早起きをして、ご飯をしっかり食べ、きちんとあいさつをする。こういった細かいことの積み重ねを大切にしてほしいですね。

また、長い人生において悩みは付いて回るものです。学生のうちは自分のことだけですが、年を重ねれば周囲や大切な人たちの悩みも抱えることとなります。心配や不安があったら、しっかりと向き合ってください。きつと将来の糧になります。重要なのは「自分で」解決策を探ること。それが成長につながるはずですよ。

インタビューを終えて



1時間の取材は本当にあっという間でした。河野社長のお気遣いで私への逆質問もあり、終始雰囲気良く取材をさせていただきました。特に印象に残っているのはMVVについての話です。自分のことだけでなく、周囲の方々の人生を背負う経営者としての責任感が伝わってきました。

インタビューは、記者に教わった取材の心得を発揮する場でした。結果としては、実際に社長を目の前にして実践する難しさを痛感しました。取材後に準備してきたメモを見返すと反省点がたくさん出てきて、実力不足を感じ悔しい思いでした。

取材・記事 高橋 弥月（広島大学3年）